



第114号

2014-2015年度 主題

国際会長：Wichian Boonmapajom “Mission with Faith”
「信念のあるミッション」
 アジア会長：Edward K. W. Ong “Through Love, Serve”
「愛を持って奉仕しよう」
 東日本区理事：渡辺 隆 **「原点に立って、未来へステップ」**
 湘南・沖縄部長：今城高之 **「一人ひとりが愛と平和の種をまこう！」**
 クラブ会長：辻 剛 **「初心に帰り、世のため、人のため」**
—喜びと楽しみを求めて—



今月の聖句

「兄弟たち、私自身は既に捕らえたとはいっていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです」

フィリピの信徒への手紙 3:13-14

2015年11月本例会

日時：11月27日 18：30～

場所：かけはし都筑

受付：久保勝昭

司会：今城宏子

プログラム

開会点鐘 辻 剛会長

ワイズソング・信条 一同

今月の聖句 相賀チャプレン

ゲスト・ビジター紹介 司会者

会長挨拶 辻 剛会長

卓話 「メンバー増強」

～東京ベイサイドクラブ設立秘話～

しのめYMCAこども園園長

堀江 和広氏

卓話者プロフィール抄録

東京グリーン・東京ひがし・江東・東京ベイサイドクラブの担当主事を歴任。スクーバダイビング歴30年、生粋の下町育ち。現在は、愛妻と愛犬との生活。

各種アピール

スマイル

YMCA報告 生井担当主事

誕生日祝い 3日 生井佐智子さん

閉会点鐘 辻 剛会長

◇ 懇親夕食会

会場：ピッツァ カルヴァートレ クロ
 ビジター・ゲストの皆さんを囲んで、懇親の時を持ちます。

バザーの思い出

林 理子

〇〇まつり、〇〇フェスタなど、呼び方は違っても、秋はいろんな所でバザーが開かれています。北YMCAまつりも、晴天に恵まれ無事終わりました。もちろん我がつづきクラブも、「のみの市」「綿菓子」「コーヒー」と年齢を忘れて大活躍。終了後の後片付けも終わり“ドッコイショ”と同時に声をあげて腰を下ろし、顔を見合わせたり…。若者たちから熱気を沢山もらい、来場のお客様との会話を楽しみ、秋の一日は過ぎていきました。

私が初めてバザーのお手伝いをしたのは、確か高校生の頃、教会のバザーでした。小さなコーナーでしたが、お金の管理もまかされて、ちょっぴり大人に近づいたようで嬉しかったのを覚えています。

結婚してからは、毎年のように教会のバザーに参加してきました。転勤で地方の教会も経験しましたが、子育て中ということもあり、楽しい思い出が沢山あります。沼津でワイズに入りましたが、YMCAのバザーというと目黒YMCAが初参加でした。息子が3歳児クラスに通っていたので、家族全員参加で楽しみました。目黒Yのバザーでは、終了後に関係者のみで行う「残り物オークション」も楽しみの一つでした。ある年のバザーで歯ブラシが沢山残っていた時のオークションで3歳の息子が「ニシヤクゴジュウエン」(250円)と大きな声を上げたため、仕方なくまわりの大人たちも、その値段で買ったことがありました。また、カレーの大鍋をこげつかぬようかき混ぜていた娘が、実は翌日中間テストだったという事を知ったのは、バザーが終わってからというのん気な母の私でした。

Y'sのメンバーも高齢化で、力仕事などがきつくなってきますが、出来る範囲でYMCAにつながって続けて行けたらと思います。

楽しかった初の移動例会スナッフ

仙洞田さんと若尾果樹園で



前月データ

甲州名物 伝家の「ホウトウ」



例会出席	16名	在籍会員数	18名	各種記録	前月	累計
メンバー	14名	月間出席数	16名	使用済み切手	0g	100g
ビジター	名	メーキャップ	2名	プルタブ	3.4kg	10.4kg
ゲスト	2名	月間出席率	89%	スマイル	円	35,922円

＜10月移動本例会報告＞

日時:2015年10月23日(金) 8:30～20:30

参加者:今城H・T、岡崎、岡田K・M、久保、鈴木K・S、
辻Ts、林S・M、福島、横田、金城(休会中)

ゲスト:三木紀昭、三木直子

10月度はクラブ・シンキンキングでもあるので、充実した例会にしたいと様々な企画がなされ、今回は楽しいクラブ活動としてぶどう刈りを兼ねた移動例会となりました。

朝8:30にセンター南駅に集合、レンタルバスにて出発。途中市ヶ尾で3人をピックアップして一路甲州へ。ゲストは三木さんご夫妻と金城さんと、運転を白田氏(横田の知人)にお願いしました。

東名高速に入り、辻会長の点鐘に始まり、ワイズソング、信条・今月の聖句に続き、鈴木氏の祈祷でセレモニーは終了。続いて、横田より本日の訪問先の甲斐の国甲州のワイナリーなど日本のワインについてレクチャーがあった。(詳細は添付の資料参照)

次に鈴木さんから本題のシンキンキング授業に入り、問答集を参考にそれぞれ回答を得ながら、ワイズ・YMCAなどに関する理解を深めました。当然、例会故アルコールは飲めず、圏央道、中央高速を経て、最初の訪問ワイナリーである若尾果樹園に到着。ここは甲府クラブの仙洞田さんに紹介して頂いておりましたが、到着すると既に彼が我々を出迎えて居られたのでびっくりと感謝でした。

若尾果樹園のご主人や息子さんなどから、ぶどうの種類やワインなど勝沼の果樹についてレクチャーを頂き、すでに刈り取りのシーズンが過ぎていましたが、4種類ほどの甲州ブドウをもぎ取り美味しくいただき、昨年醸造のワインを試飲させていただきました。また、甲府21クラブの駒田さんより赤・白のワインと仙洞田さんからブドウ・桃のカレーをお土産に頂戴し感謝でした。

山梨県立美術館のレストランでブドウカレーのランチを食べ、ミレーの絵画鑑賞も早々に次なる登美の丘ワイナリーへ向かい、サントリーが経営運営する登美の丘ワイナリーに予定通り13:30ごろ到着しました。さっそく園内の案内バスに乗り換え1時間程ぶどう畑、醸造所、セラー(カーブ)を回りました。100年余の歴史でワイン造りの苦労話などを勉強したところです。15:30ごろワイナリーを離れ、最終見学ワイナリーのぶどうの丘へ移動しました。

ここはホテルやレストラン、天空の湯温泉などの施設があり、それぞれの自由時間を楽しむこととして、温泉に入る人、買い物を楽しむ人、お茶の時間を楽しむ人、思い思いの時間を過ぎて、17:00より夕食タイムとなりビール・ワインで乾杯し山梨名物の「ほうとう」鍋を賞味し、帰路につきました。

帰りの車中ではお土産の甲州ワインを、飲みながら、ウトウトしながら無事にセンター南駅に帰着しました。事故もなくスムーズな運転に身を任せ、有意義な移動例会ができたこと本当に嬉しく感謝です。

我々クラブ員の、更なる絆をも深めた例会でした。

(横田 孝久 記)

「移動例会に参加して」

10月23日14名のワイズメンバーと今城ご夫妻のお誘いで参加された三木様ご夫妻の16名を乗せた小型バスは、甲府へと向かいました。

トンネルまたトンネルの車中では、鈴木ワイズの“ワイズクイズ”で盛り上がり、横田ワイズの“日本のワインについて”の解説を、用意されたプリントで学び、出会えるワインに密かに期待をしました。バスは高速を降り、両脇にブドウ棚が続く道へと入りました。ブドウ園のワイン醸造所の設計をされた甲府クラブの仙洞田さんの出迎えを受け、広がるぶどう棚の下で早速試食。

好みの品種を選び、いよいよ“ぶどう狩り”。手に房の重さを感じつつ丁寧に鋏でカット、仰いだ空に爽やかな秋の気配が感じられました。店頭ではワインの試飲があり、三木さんはチーズをご持参でした。なんと気の効く方でしょう！(私も一切れ頂きました。ごちそうさまでした) 銘々がお土産や自宅用に買い物を楽しんだ後、仙洞田さんよりぶどうカレーと桃カレーのお土産を頂き、また甲府21クラブの駒田勝彦会長より紅白ワイン差し入れのお気遣いを頂戴いたしました。本当にありがとうございました。



再びバスに30分、ミレーの美術館として有名な山梨県立美術館で、<種をまく人> <落ち穂拾い>の名画を鑑賞しました。何度か出会っている絵画ですが、もっと時間を掛けて観ていたい作品でした。

ランチにいただいたカレーのおいしかった事、緑あふれる庭園にもまたぜひ足を運びたいとの思いを後に、登美の丘ワイナリーへと向かいました。

見学ツアーでは、ワインの樽の数や貴腐ワインに見とれ、外では見渡す限りのぶどう棚の説明にうなずき、横田さんの甲州ワインの歴史の解説を思い出しつつ、興味深く日本のワインを知る事ができました。見晴らし台から甲府盆地を眺め、最後に紅白ワインの試飲コーナーへと進みました。ワインや産地の名物を買われた方もいらっしゃるのでは。

バスは最後の夕食も兼ねた「ぶどうの丘」へと到着。天空の湯に入る人あり、コーヒーやアイスクリームで一息つく人あり、買い物をする人ありで、ホッとしたひと時を過ごしました。夕食の名物“ほうとう”に舌鼓を打った後、暮れなずむ勝沼インターへと帰路につきました。

好天の下、甲州の秋の1日を満喫し、十二時間の移動例会を楽しく無事終えました事を嬉しく思います。最後に、下見をして下さった方々には、昼食抜きで強行軍でお疲れさまでございました。安全運転でスケジュール通り無事に連れ帰って下さったお上手なドライバーさんをお連れ頂いた横田さん、皆さま本当にありがとうございました。

(岡崎 さよ子 記)

<11月事務例会報告>

日時:2015年11月10日(火) 18:00-20:00

会場:田園都筑教会

出席者:今城 T・H、岡崎、岡田 K・M、久保、鈴木 S・K、辻 Ts、林 S・M、福島、横田

今月から事務例会は18:00開始となりました。

議案(1)各事業チームの企画書の件

前回の事業チーム発足に引き続いて、各チームチーフによる企画書の説明検討をしました。

- ・10周年記念誌(鈴木Sチーフ) …目次兼企画書が配付され、内容と担当者が検討された。祝辞依頼者、発行日・部数、予算など早急に煮詰めていく。
- ・10周年記念例会(今城Tチーフ) …横浜つづきクラブらしく、富士山YMCAを会場に、BBQ・音楽中心で行う。5/21(土)が良い。早急に企画書を作る。
- ・新規事業B(今城Hチーフ) …被災地支援事業として、南相馬市の原町聖愛保育園への活動を始める。先ずクリスマスカードを送る。(誕生カードの送付は来年度4月から)なお、原町教会・中野通彦先生夫人、中野祐子さんに2016年6月本例会にて卓話をお願いすることにした。(鈴木恭子さん確認済み)
- ・新規事業A(久保チーフ) …北YMCAでの歌声広場は運営委員会がバックとなっているが、横浜つづきクラブも支援に加わる。YMCA、ワイズメンズクラブのPRを今後も推進する。歌声広場を別の場所でも開催し、5年・10年と続くつづきクラブの事業として検討する。これらの活動を通して、つづきクラブの会員増強にも繋げる。
- ・会員増強(横田チーフ) —純増2名を目指す。推薦方式・活動の参加など勧誘の仕方を工夫する。
- ・クラブ会則見直し(辻Tsチーフ) …準備をしている。
- ・クラブ内親睦促進(横田チーフ) …10・23 勝沼ブドウ狩りバスツアー移動例会を行った。また楽しい企画をしたい。今年度中にもう一回実施を検討。

議案(2) Y-Y'S 合同新年会の件(辻Ts)

1/16(土) 18:00-21:00 ホテルプラムにて行う。横浜YMCAの了承を得、費用は6500円。部として会の内容を詰めてほしい。それに基づきホストクラブとして、プログラムの作成・受付・会計など運営面で尽力する。

議案(3)第2回 Y-Y'S 協議会の件(辻Ts)

12/1(火) 19:00-20:30 横浜中央YMCAにて行われる。担当は横浜つづきクラブ。プログラムは、生井北Y館長が作成済み。

議案(4)ワイズデーの件(辻Ts)「1928年11月10日に、大阪クラブが日本で初めてワイズメンズクラブ国際協会に加盟したことを記念したものです。」

議案(5)沖縄訪問の件(辻Ts)

参加は今城T・H、林S・M、岡田K、辻Ts、鈴木Sの7名。

報告・連絡・確認事項

- ・例会次第通り報告があった。
- ・東北被災地支援山元町訪問(林S) …11月のみやま荘・南保育所訪問は中止とする。

・東北被災地支援金の使い道(今城T) …東日本区の役員会で議題となった。現在はそれぞれの活動に給付しているが、残額も少なくなってきたこともあり、支援金を現地の各YMCAに委ねる方向で検討すること。山元町訪問時の交通費半額補助が無くなるかもしれない。

- ・11-12月の予定確認(年間予定表にて) 12/8(火)事務例会はクリスマス夕食会とする。料理・飲み物持ち寄りです。マーシャルは今城H、横田。
- ・十勝のかぼちゃ、じゃがいも、たまねぎをメンバーで頂いた。十勝ワイズメンズクラブ(山田敏明会長)に感謝。
- ・11~12月GS活動担当者確認 月別担当者予定表で確認した。

閉会后、「一心」で懇親夕食会。事務例会を30分早く始めたのに、終わりはいつもと同じ夜10時を回っていました。

(岡田 勝美 記)

<第18回 インターナショナルチャリティーラン報告>

すでに各方面から報告がなされているように10月17日(土)、横浜みなとみらい臨港パークにおいて第18回インターナショナルチャリティーランが無事に開催されました。当日、朝は土砂降りの雨! 前日から泊まり込みで情報を集めていた生井北YMCA館長が午前5時直前に「9時頃から2~3時間、雨が上がる」との予報に賭けて、祈りをもって開催を決断!! 私共「つづきクラブ」の面々も寒さ対策をしっかり固めて9時前に集合しました。到着するとすでに多くのテントが張られていて保育園のちびっこランナー達ははじめ多くのスタッフやボランティアがやる気満々で集っていました。私共の担当は例年通り受付とお弁当配布です。容赦なく吹き付ける風雨にびしょ濡れになりながら受付開始。参加を予定しながら天候のため断念されたグループもあり、残念でした。

開会式直前、雨雲が急激に去りなんと薄日がさしてきたではありませんか。可愛いチアリーダー達のパフォーマンスで始まり今城高之実行委員長の開会宣言、ゲスト紹介、「タカノ」の佐々木選手による選手宣誓等に続き準備体操、そして3つのグループがコース短距離順にスタートです。私共がスポンサーする「アスタPC」「みんなの家」チームは共にBグループ。お弁当配付の準備をしながら気が気ではありません。アスタPCは去年での経験を生かしファイト溢れる走りに期待がかかります。「みんなの家」チームは走者が足りず「アーモンド」の佐藤樹さんとワイズのコメント相賀頌子さんを助っ人に得てのリレーです。出番が近付くとコース横に出て必至で応援しました! 両チームとも見事に完走!



「アスタPC」の走者お一人が頑張りすぎて気分が悪くなるというハプニングがありました。救急所で休ませて頂き事なきを得ました。そして「みんなの家」はなんと9位入賞！助っ人お二人にも嬉しいニュースをお伝えして喜びを分かち合いました。お弁当の配布が始まる頃には太陽が顔を出し気温も上がり暑いほど。実行委員会としては胸を撫で下ろしたことでしょ。

閉会式に移り表彰式が行われABCの一位、又特別賞が発表されました。細田賛助会長から田口総主事に障がいのある子ども達のプログラム支援として615万円の寄付金目録が贈呈されました。田口総主事の感謝の挨拶に続き若木副実行委員長の閉会挨拶、最後に抽選会が行われ多いに盛り上がりました。

参加者と共に励まし合い喜びあった一日を心から感謝して打ち上げ会場に向かいました。

(今城 宏子 記)

<あずさ部会に出席して>

- ・日時:2015年10月18日(日) 14:00~18:30
- ・場所:山梨県防災新館(甲府市)
- ・ホストクラブ:甲府クラブ
- ・参加者:107名、内、あずさ部以外の参加者は直前・現・次期の各理事、元国際会長以下21名。
- 当クラブからの参加者:久保、辻 Ts、林S

◇ 部会の流れ

- (1) 第1部・式典:ほぼ型通りのプログラム。特記事項としては「あずさ部事業主査あいさつ(事業主任とともに)」が印象に残った。(詳細は後述)。
- (2) 第2部・記念講演:「モノづくりを通しての国際貢献」～地雷除去に挑む 豊かで平和な大地への復興～、講師:(株)日建代表取締役・雨宮 清氏。大変感動的な講演だった。(後述)。
- (3) 第3部・懇親会:ほぼ型通りのプログラム。地元らしくとれたてのブドウ、ワインが印象的だった。

◇ 特記事項:とくに印象深かったのは、以下の2点だった。

- (1) 第1部:「あずさ部事業主査あいさつ(事業主任とともに)」:

あずさ部の4人の事業主査が、区事業主任とともに登壇し、主に部の事業について説明を行い、事業主任は国際関係の事業についてコメントをした。

これは「部の活性化」実現にとって最も大切な部事業主査の活躍と区事業主任との関係強化の象徴的なアピールだと感じました。最近では他の部でもこのような動きがあるようですが、さすが 「部の強化・活性化」を主な方針に掲げる渡辺 隆理事のお膝元だと思いました。

(2) 雨宮 清氏の記念講演

「モノづくりを通しての国際貢献」:

その講演の内容と語り口により多くの人に感銘を与えました。講演直後、お礼の言葉を述べたあずさ部の標 克明部長等は感極まって最初はほとんど言葉にならないほどでした。雨宮氏の活躍についてはTVのガイアの夜明け」他、でご覧になった方もおられるかも知れませんが、カンボジア

におけるポルポトとクメール軍の戦いで埋められた多くの地雷を除去するため対地雷除去機の開発という「モノづくり」から始まっている。そして、今や世界で約120ヶ国に約1億個も埋設されていると言われている地雷を除去するため雨宮氏が開発した地雷除去機は世界9ヶ国で110台以上が地雷原復興のため活躍している。これだけでも地雷被害を受けた大地が復興し、即ち、農耕地、学校、道路などに変わり農民の自立や平和、経済復興に大いに役立っている。

しかし、雨宮氏のすばらしいところは、地雷除去機を単なるビジネスに終わらせないで、「技術の根源はモノづくり、人づくりにある」という信念に基づく活動にある。それは、技術指導、機材供与、学校支援、復興支援、慰問活動などを積極的に行っていることである。ドラマティックなエピソードを交えながらの感動的なスピーチを紙上で再現できないのが残念ですが、以上を以ってご報告に代えさせていただきます。

(辻 剛 記)

<第21回福祉農園(芋ほり)に参加して>

10月18日(日)恒例の福祉農園に行ってきた。天気にも恵まれ参加者も多く盛況でした。会場には沢山のブースが並び、アスタPCも店を構えていました。舞台も整っていました。

横浜つづきクラブは岡田K・Mが参加し、芋ほりの受付・案内などを担当しました。一緒に働いた若いボランティアたちも交わりました。彼らは障がい者に非常に興味を持っているようです。

芋の生育は昨年より良く、芋ほり券も昼前に売り切れしました。障がい者たちも掘った芋を手にとり満足げでした。私たちも芋ほりを楽しみました。

(岡田 美和 記)

<金沢八景クラブ設立10周年を祝う会参加報告>

10月24日、湘南・沖縄部、金沢八景クラブの、「設立10周年を祝う会」が横浜駅西口のベイシェラトンホテル「彩龍」にて開催され出席しました。ホスト側金沢八景クラブの皆さん、元国際会長、現理事、元理事、次期理事を始め、湘南・沖縄部諸クラブ代表などワイド関係者の面々、更に、金沢八景クラブの主要プログラム「ミニ・バスケット」の連盟関係者、金沢八景クラブと交流のある大勢のゲストも加わり、総勢六十数名を数える豪華な「祝う会」となりました。



金沢八景クラブの設立は、2005年12月10日で、チャーターナイトが明けて2006年2月26日と言いますから、我がつづきクラブの数か月先輩と言うことになります。設立より今

日に至る間、2009年に沖縄ワイズ、2010年に関内ワイズの立ち上げに携わるなど、目覚ましい活躍は関係者のよく知るところではありますし、前述の「ミニバスケット」(2006年より)や恒例の「チャリティー芸能祭」(2006年開始)ではCS活動の実をあげておられるほか、芸能まつりの収益は、東日本震災復興に成果を上げておられます。また、横浜YMCA ICCP-Jプログラムに協力し、毎年台湾からの訪日研修生へのホームステイ先提供など、Yサ活動でも素晴らしい実績を上げてこられました。

こうして、我々とほぼ「同期」の金沢八景クラブの活躍振りを目の当たりにすることは大変心強く、我々自身、特色を生かした「つづきクラブ」らしいプログラムを続けて行くことが大切であることを今更ながら強く認識致しました。

当夜の話に戻りますが、門松久子会長による開会点鐘と開会の辞など一連の式典に始まり、渡辺隆東日本区理事、今城高之湘南・沖繩部長ほかの祝辞があり、続く祝宴の部では、利根川恵子次期理事の祝辞、剣舞、舞踊のアトラクションに次いで、浅見隆夫元東日本区理事の乾杯の音頭で宴席が始まり、全体で2時間余りの祝う会が滞りなく進行しました。

なお、当クラブからは社会長と今城部長が出席しました。

(今城 高之 記)

<2015年度北YMCAまつり参加報告>

日時 : 2015年11月3日(火・祝) 10:00~16:00

会場 : 横浜北YMCA

つづきクラブからの参加者: 岡崎さよ子、岡田勝美・美和、久保勝昭、鈴木 恭子・茂、辻 剛、生井知三、林 茂博・理子、横田孝久



好天に恵まれた11月3日・文化の日、恒例の北YMCAまつりが開催され、横浜つづきクラブから11名が参加した。9:30より開会式が行われ、鈴木 茂実行委員長から開会祈禱に続いて、今年は「みんなあつまれ」との標語のもとに、「北Yまつり」を地元の方々とYMCAとの良き交流の場にしたとの挨拶があった。10:00の開場時刻前にすでに、入口の前には入場を待つ方々の長蛇の列ができていた。開門と同時に、待ちわびていた人々が会館の中に突進してきた。これが、横浜北YMCAが地域の方々から愛され、親しまれている証拠だとすれば、実にすばらしいことである。しかも来場者の半分は小学生以下のお子さんである。少子

高齢化の社会で、どこにこんなに大勢の子どもたちが居るのだろうか不思議に思われる程である。少なくともこの子どもたちが、将来、YMCAの大きな支えになることは間違いはない。

「北Yまつり」には様々なプログラムが用意されているが、私たちワイズメンがお手伝いしたのは、2階のバザー(中古品販売)と1階の飲食コーナー(わたがし・コーヒー・もちつき)である。ここ数年お手伝いしていると、毎年必ず「北Yまつり」に来て下さっている方々と少し顔なじみになる。きっと「北Yまつり」を楽しみにしてきている方々に違いない。そうしたYMCAファンがおられることは頼もしいことである。

主催者側発表によれば、今年の横浜北YMCAまつりへの来場者数は約1,500人である。田口総主事のお話では、「北Yまつり」は、かつては横浜YMCA各館の中で、最大の来場者数を誇っていたが、最近では街ぐるみで「まつり」を展開している湘南とつかYMCAに、人数では圧倒されている由である。来場者数の規模はともかく、横浜北YMCAが今後とも、地元の人々から愛され、地域とともに発展するYMCAであり続けることを祈りたい。

(鈴木 茂 記)

<横浜北YMCAだより>

▶ 今年もワイズの皆様をはじめ多く、ボランティアの方々に支えられ11月3日に横浜北Yまつりが開かれました。今年度のテーマは『みんな集まれ!』は、多くの方たちに横浜北YMCAに集まっていただき楽しんでもらおうと実行委員会で決定しました。当日の朝のミーティングでも実行委員長の鈴木さんよりボランティアの方々全員に今回のテーマなどをお話いただきました。

▶ 11月に入り、今年もYMCAの国際地域協力募金キャンペーンがはじまりました。2015年度国際・地域協力募金キャンペーンは、2015年11月1日(日)~2016年3月31日(木)までの期間進められます。キャンペーンのテーマ「笑顔につながる小さな一歩」と募金目標額12,000,000円も決まり、このキャンペーンはスタートしました。

この国際・地域協力募金委員会の組織は、各YMCAから選出された委員を構成員とし、国際事業委員会の中に設置されて進められます。今年度の募金委員長は、肅藤百合子さん(常議員、国際事業委員)が担ってくださいます。横浜YMCA募金委員会では、このキャンペーンを通して多くの方々にYMCAの国際・地域活動に協賛していただき、募金キャンペーンへの参画者を増やし、募金目標額の達成につなげる取り組みを募金委員会と共に進められていきます。

▶ 今回の横浜北YMCAのテーマは、「いま、できること」として北Yまつり、クリスマス会、街頭募金、ファミリーイベントを通してこのキャンペーンを会員の方々と一緒に推進していきます。

【横浜YMCA国際・地域協力募金主な使途先(予定)】

- ・タイの児童保護活動(プロテクト・ア・チャイルド)
- ・タイ・パヤオセンター大学進学 タンタワン奨学金
- ・タイ・パヤオセンター長期ボランティア派遣

- ・国際ボランティア in タイ
 - ・ミャンマー地域医療・公衆衛生活動(ミャンマーボランティアの旅)
 - ・パレスチナ難民支援・オリーブの木キャンペーン
 - ・カンボジア教育支援
 - ・対人地雷被害者支援(カンボジア、アフガニスタン他)
- 《12月の主な行事予定》

12月 8日 うたごえ広場
 12月13日 北YMCAクリスマス
 12月17日 横浜 YMCA クリスマス礼拝
 (横浜北YMCA 館長 生井知三 記)

12月例会予告

12月本例会は、例年通り横浜YMCAクリスマスに合流して開催されます。開催日・場所共に変更になりますので、ご注意ください。

本例会:12月17日(木) 18:30-20:30

例会場:湘南とつかYMCA

12月事務例会は、8日(火)18:00から田園都筑教会でクラブのクリスマス祝会も兼ねて開催します。事務例会後、会員持ち寄りの飲み物・食べ物で、クリスマスの喜びを共に分かち合います。

日本のワインについて

2015年10月23日
 横田 孝久

＜移動例会におけるレクチャー＞

正倉院御物(ごもつ)とぶどう

奈良時代の寺や官庁の主要なものを保管する倉庫がありました。それを正倉院といわれています。その御物の中に、ガラスや銀製の酒器があります。これはシルクロードから中国に伝わってきたものといわれ、ワインを飲んだ杯ともいわれます。これらは当然遣隋使、初期の遣唐使によって持ち帰られた時ワインも共に日本に入ってきたと推測されますが定かではありません。それとは別に日本の古代には山ぶどう、野ぶどうの実からジュースになり自然発酵したものを飲んでいたのですが、日本の食文化に合わず、穀物からの酒に変わっていったように考えられています。

このあたりの歴史は大変興味がありますが、膨大な研究が必要でここでは省きます。興味のある方は「古事記」などを参考にしてください。

中世から現代へのワイン

伝えによれば養老二年(718)、高德の僧、行基が西国から甲斐の国にやってきた。そして勝沼の日川の川岸で祈願をしたところ、薬師如来が現れたので大善寺と名づけた寺を建立した。その時、薬師如来が左手に宝印を右手にぶどうの一房を持っていたので、中国から伝わったぶどうの種をこの地にまき、それが「甲州」というぶどうのもとになったといわれています。詳細はこれも多種の歴史

書で勉強してください。

その後、ポルトガルの宣教師が織田信長に献上した、ワインですが、当時は楽しむというよりは健康のための薬酒の意味合いが大きかったようで、高価でもあった。

日本のワイン小史

先に述べたように、古くから日本にも山ぶどうなどが自生していたが、初めて栽培されたぶどうは甲州種(白ワインの原料)で、栽培を盛んにしたのは1615年に医師の永田徳本によるところが大きい。戦国の武将たちも宣教師たちからの贈り物として飲んだようです。鎖国などのために発展をみななかったが、明治に入ってから、文明開化、殖産興業政策などにより各地で栽培や醸造が活発になっていきました。

その後、多くの人が欧米に渡り、技術を習得して山梨県を中心に発展しました。しかし、日本の気候では高温多湿で秋に雨が多いため、ヨーロッパ系ブドウの栽培がむずかしく、味自体もなじめなかったようです。織田信長が飲んだのもポートワインといわれています。

ポートワイン

そもそも、ポートワインは発酵途中のワインに透明のブランデーを加え、発酵を抑えて造られたものです。日本でなじみの名前は赤玉ポートワインです。

ポルトガルの北部、ドウロ川上流でつくられたワインを帆船で河口のヴィラ・ノヴァ・デ・ガイアに持っていき、そこで熟成・瓶詰し、対岸の大西洋に面するポルト港から出荷するものをポートワインといいます。4種類あります。ポートワイン・ルビーワイン・トニーワイン・ヴィンテージポートワインです。

また、シェリー酒も同じようなものです。

最後に

日本におけるワイン造りがやっと開花するのは、第二次世界大戦後の昭和30年代になってからです。まだまだ新しい。本日の移動例会でのいろいろな見学や試飲などを通して、少しでもワインに興味をもっていただければ幸いです。

* 甲州種

その由来については行基による甲斐国へのブドウ導入説(718年)、上岩崎(現山梨県勝沼町)の住人・雨宮勘解由という人の発見説(1186年)などの伝説がある。

* 雨宮勘解由(あめみやかげゆ)

文治2年(1186年)上岩崎で毎年3月27日に行われている石尊祭りに参加するため、村内の山道を歩いていたところ、珍しい葛草を発見したのが由来とも。

* 永田徳本

永正5(1508年)?~寛永7(1630年)?、信濃室町時代末期から江戸時代初期の医師で知足齋と号す。「十六文先生」「医聖」とも称される。

出生地不明ですが、甲斐に居ることが多かったようで、甲斐の徳本とも呼ばれる。

横浜つづきクラブ「ワイズクイズ」(2015～16年度)

2015年10月23日移動例会

No.	問題質問	解答
1	辻 剛 横浜つづきクラブ会長の今期「会長主題」は？	ブリテンご参照
2	今城高之 湘南・沖縄部長の今期「部長主題」は？	ブリテンご参照
3	渡辺 隆 東日本区理事の今期「理事主題」は？	ブリテンご参照
4	「ワイズの信条」1自分を愛するように「①」を愛そう。2青少年のために「②」に尽くそう。3世界的視野をもって「③」を図ろう。4義務を果たしてこそ「④」が生ずることを悟ろう。5会合には出席第一、社会には「⑤」を旨としよう。	① 隣人②YMCA ② 国際親善 ③ 奉仕第一
5	ワイズメンズクラブ東日本区が実施している4大事業は、①地域奉仕・YMCAサービス、②国際・交流、③ユース、では④は？	会員増強
6	地域奉仕活動資金(CS Fund)の資金源は「？」と現金の寄附。	お年玉年賀切手
7	「国際・交流」の主要事業としてIBC/DBCの締結推進のほか「①」、「②」、「③」などの諸献金の理解と募金の促進がある。	① BF、②EF、③ TOF、
8	ユース事業の一つとして実施されているワイズ子弟の海外派遣・訪問制度には、YEPPと「？」がある。	STEP
9	EMCのM=Membership、C=Conservation、ではE=「？」は？	Extension
10	区における事業活動の計画、立案、実施の責任役員を「事業主任」という。では部において、事業活動の推進活発化を担当する部役員「？」は？	事業主査
11	「部評議会」は部の活動方針を協議、決議する部の最高決議機関。その構成員は部の役員と各クラブの「？」である。	会長・副会長・ 書記・会計
12	横浜つづきクラブの会則によれば、会則・諸規定の制定及び変更、事業計画及び収支予算の決定、事業報告及び決算の承認、役員の選任はクラブの「？」の議決を要する。	総会
13	湘南・沖縄部の部則によれば、評議会構成員であるクラブ役員が評議会に出席できないときは、同一クラブ内の他の評議会構成員(やむをえないときは、「？」)に委任することができる。	議長
14	横浜には15歳～30歳の男女青年をメンバーとする「Y3クラブ」がある。その会長、代表者は区、部の会合に出席することはできるが、Y3クラブは「？」の会費の納入義務はない。	区費・部費
15	クラブ会長と部長は、それぞれクラブと部を代表して、区の立法機関である「？」の構成員になる。	代議員会
16	「？」は7月1日及び1月1日現在の在籍者について、所定の用紙に記入して部長に報告するもので、区費、献金目標額等算定の基礎になる。	半年報
17	クラブ書記は、会員に異動があればその都度所定の会員異動報告書に記入して、「？」に報告する。	東日本区会員増 強事業主任
18	会費の不払いは例会の理由なき欠席と同様に、「？」の失格を意味する。	会員

横浜つづきクラブ「ワイズクイズ」(2015～16年度)

No.	問題質問	解答
19	東日本区が発行している各種マニュアル・資料の入手、ビジター(他クラブの例会出席者)に対するメーキャップカードの発行は「？」の仕事である。	クラブ書記
20	クラブ担当主事は、関係YMCAの「？」が指名し、YMCAの諸活動をクラブ会員に周知徹底する立場にある。	総主事
21	東日本区には、年度初めに理事から提示される各月の強調テーマがある。では10月の強調テーマは何か？	EMC-E YES
22	クラブ例会には、クラブバナー、ギャベル・鐘、万国旗などの必需品がある。では胸に付ける丸型の名札は何と呼ぶか。	ランチョンバッジ
23	クラブ会費から支出されている定額費用で、国際会費・アジア地域会費・東日本区大会負担金などに充当されるものを「？」という。	区費
24	東日本区が推進している献金には、BF、TOF、ASF、RBM、YESなど多種多様なものがあるが、このうちRBMは何を目的としているか？	マラリア感染防止
25	東日本区はクラブブリテンの「？」ページ下欄に次の各項目の月間記録を記載することを要請している。在籍会員数、例会出席者数、メーキャップ数、出席率、BFポイント、スマイル等の通年記録等。	1ページ
26	「？」はアレキサンダー奨学資金の略称で、YMCAで働くことを希望する学生、YMCAに在職しながらさらに高度な訓練を受けたいと希望する若手主事に対する支援を目的としている。	ASF
27	東日本区はYMCAのリーダー育成のために、ユースボランティア・リーダーズフォーラムを開催している。このフォーラムは各クラブからの拠出金(1クラブ「？」円)によって運営されている。	20,000円
28	IBCは国際兄弟クラブを意味するが、横浜つづきクラブが締結しているIBCはデンマークの「①？」クラブとブルガリアの「②？」クラブである。	① ラナース ② プロヴデイフ
29	DBCは国内兄弟クラブを意味するが、東日本区に所属するつづきクラブは「？」区に所属するクラブとのDBC締結が望ましいとされている。	西日本区
30	東日本区でワイズ活動の指針となる規約、マニュアル等の文献を作成、監修、管理する事業は「？」がその任に当たっている。	文献・組織検討委員会
31	東日本区で区報、区大会資料、クラブ記念誌、チャーター関係文書等を収集、保存、整備する専任委員を「？」という。	ヒストリアン
32	東日本区ではウェブサイトの管理、メーリングリストの整備・運用を担当する専任委員を「？」という。	ITアドバイザー
33	国際憲法に定められたワイズメンズクラブのモットーは「？」である。	ロースター参照
34	ワイズメンズクラブは決してキリスト教信仰を強いるものではないが、「？」に示されたキリストの教えについて、理解を深めることが望まれる。	聖書